

たまゆメンバーズクラブの取組

モデル公民館(H20～H22)
松江市玉湯公民館

〔取組の概要〕 青少年ボランティアグループ「たまゆメンバーズクラブ」が発足し、公民館活動や地域活動に積極的に参画している。活動は住民にも浸透し、青少年が地域の行事に関わることで異世代交流が進むなど、地域の活性化に欠かせない存在となっている。

1 本事業に取り組もうと思った理由

平成17年には、文化祭はたいへんな賑わいであったが、若者の関わりが非常に少なく物足りなさを感じていた。もっと若者が活動する文化祭にしたいと、平成18年に、玉湯中学校生徒に模擬店出店を呼びかけたところ、学校の配慮で初日を出校日として全校生徒が参加、2日目は希望者がボランティアで参加してくれることになった。

中学生が模擬店や発表会場のサポートでいきいきと活動する様子は大変好評で、「地域が生まれ変わったようだ」、



平成18年の文化祭

「中学生を見る目が変わった」といった感想が聞かれた。中学生にとっても汗を流して懸命に声を張り上げてがんばったことや、地域の方に喜んでいただけたことで大きな達成感や充実感を味わった。

文化祭には玉湯町大谷地区の若者も参加し、口々に地域への愛着を語ってくれた。同地区では夏祭りやキャンプなど地域ぐるみで季節の活動が行われ、子どもたちから地域活動に参加することでいろいろな文化や人と触れ合い、ふるさとを大切に、伝統や文化を守り継いでいく気風を育てていることを実感した。

翌平成19年、高校に進学した生徒たちから、「ぜひ今年も文化祭に協力したい」と申し出があった。文化祭に限らず地域の諸事業に関わることで、ふるさとを大切にすることを育んでほしいと青少年ボランティアグループの結成を持ちかけ、「たまゆメンバーズクラブ(以下たま

ゆメンバーズクラブ)」が誕生した。文化祭では地域のボランティアや中学生と協力し、前年以上の盛り上がりを見せた。

県では実証！「地域力」醸成プログラムを展開しており、たまゆメンバーズの活動を継続強化することで青少年育成と地域活性化に繋がればと応募し、モデル指定を受けた。

2 公民館としての仕掛け

(1) 協力体制の構築に向けた働きかけ

青少年が地域活動に参加する意義を理解し、協力体制を得られるよう学校・家庭・地域へ働きかけた。

学校にとって地域の方が学校を身近に感じ生徒を育ててもらい機会、家庭にとって子どもたちがいきいきと活動し成長を得られる機会、地域にとって青少年と触れ合う楽しさやまちの活性化、文化の継承の機会を得ることができる。PTA 総会や職員会議、自治会総会など全体への働きかけと、管理職や代表者などキーパーソンへ個別に働きかけを行うことで、より具体的な協力者の確保を可能とした。特に学校の協力は不可欠であり、管理職の先生方とは日ごろから学校と地域の連携について議論できる関係を心がけている。

たまゆメンバー自身も学校・家庭・地域に見守られ適切な支援を受けることで成長でき、楽しく地域貢献、自己実現を得られる機会として意欲的な参加に繋がっている。



メンバー考案のたまゆメンバーズクラブのシンボルマーク。玉湯の特長である温泉をモチーフに、3羽の雛鳥は、成長して巣から飛び立つ様子と活動理念の「3つの柱」を表している。

(2) たまゆメンバーズクラブと公民館の関わり

公民館は事務処理や連絡調整、活動場所の提供や情報発信を行うが、会の運営や事業の企画実行は基本的にメンバー主体で行う。責任感を持ち、充実感と人間的な成長を得られる主体性を育むサポートに徹している。



月例会の様子

(3) 広報活動の展開

地域の方や参加者が愛着を深め、地区内外への認知度向上の機会になるよう新聞やメディアに積極的に情報を伝えている。

3 事業の成果(地域の変容・公民館の変容)

(1) 地域活動の参加者増加

当地区では以前から「テレビを消して家庭の日」の取り組みやあいさつ運動、子ども会活動など青少年事業が活発だった。公民館の公設自主運営制度移行とたまめんの活動でさらに住民参加の意識や地域全体で青少年を育てる意識が高まった。

■当地区の事業参加者、ボランティア数の推移(のべ)

| | 平成18年 | 平成24年 |
|------------------|--------|--------|
| 子ども会家族ふれあい教室参加者数 | 98人 | 567人 |
| 文化祭入場者数 | 2,100人 | 4,000人 |
| 文化祭ボランティア数 | 98人 | 300人 |
| 玉湯青少年育成協議会役員数 | 37人 | 59人 |

(2) 若者が活躍する文化祭

自分たちでデザインしたオリジナルエプロンとTシャツを着用。結成当初は失敗の山を作ることもあったが経験を重ね、中学生の指導や店の切り盛りで大人顔負けの活躍を見せている。



平成25年の文化祭

平成24年には、趣味特技を活かしてより地域を盛り上げようとメンバー有志がバンド「T-POP」とダンスグループ「TDG」を結成した。青少年や保護者たちの人気を集め、文化祭にさらなる集客を呼ぶ要素となっている。

(3) 青少年の成長の場

星空観察会や合宿研修など自主事業の企画運営、地域活動への協力を通して、たまめんはコミュニケーション能力や接遇など社会で求められる能力を培っている。進学や就職の場面でもこうした経験を活かし、希望の進路を叶えるなど夢の実現に大きな役割を果たしている。



たまめん合宿

他にも、たまめんがお兄さんお姉さん役として関わった小中学生が成長し、進学後はたまめんとして同様に小中学生をサポートする好循環をもたらしている。

(4) 居場所としての公民館

全国的に公民館を利用する若者が少ない印象があるが、当館では夕方になると高校生たちがやって来て、自由に勉強やバンドの練習、雑談をするなど、日常的に青少年が集い交流し、癒しを感じられる憩いの場になっている。

(5) 他地区への広がり、地域を超えた連携

たまめんの青少年育成と地域活性化の取り組みは他地区からも注目を集め、年間20件近い視察の受け入れや事例発表の機会をいただいている。

他地区の青少年グループとの交流も生まれ、昨年夏の島根県西部大雨災害発生後には「八雲ジュニアサポーターズクラブ」「島根海桜会」「宍道ジュニアリーダーズクラブ」と共同で義援金募金活動を行った。12月には「大田JOいんつ♪」の呼びかけで「お芋博覧会」に出店し、オリジナルクッキーを販売した。モデルケースとして注目を集めるだけでなく、積極的に他地区と交流することで価値観の違いを共有し、さらに幅広い活動が可能になった。



お芋博覧会の様子

4 公民館として「地域力」を醸成するために大切にできたこと

当地区で心がけている点を以下にまとめたので、各地区の取組に活用していただきたい。

(1) 楽しさと意義を感じる活動

意義を見出すことで主体的に関わり、当事者の意見を組み入れることで楽しく意欲的に取り組める活動を展開する。

(2) 多機能、多世代が関わる仕組み

分野を超えて様々な集団や個人が関わることで幅広い活動や支援を得ること。

(3) 活動を継続させるために

一過性でなく、中長期的に地域の将来を見据えた活動であること。自己資金を得ることで補助金に頼らない安定した活動を展開する。活動は強制ではないが、参加しやすい内容や時間設定を心がける。

(4) 地域資源の活用

自分たちの地域の強みを知り、地域の人材や文化を有効活用する。他地区に目を向け、従来のやり方に固執せず柔軟な活動を展開する。